

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

8 芸術 美術

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(美術Ⅰ) <例>	P 3
III	「評価規準と単元計画」(美術Ⅰ) <例>	P 4～6
IV	「学習指導案」(美術Ⅰ) <例>	P 6～7

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と題材計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と題材計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と題材計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と題材計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「題材ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「評価規準」を示す。

- ・内容のまとまりごとの評価規準
…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

◎題材ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・題材ごとの目標…授業の進度に沿って題材ごとに示した目標。学習指導要領の「内容」を基に記載する。
- ・題材ごとの評価規準
…題材ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を題材の内容に即して具体化したもの。

※「題材」とは、他教科における「単元」に該当するものである。

◎指導と評価の計画に、「目標、●活動」と「評価規準」及び「評価方法」を示す。

- ・目標、●活動 …上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法 …評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

題材ごとの指導と評価の計画<例>

□科目『美術Ⅰ』の目標

○○○○○

□科目『美術Ⅰ』の評価の観点の趣旨

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○

□「○○○○」の内容

○○○○○

□「○○○○」の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○	○○○○○○○ ○○○○

□題材名：○○○○

□題材の目標

○○○○○

□題材のごとの評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
A○○○○○○○ ○○○○	B○○○○○○○ ○○○○	C○○○○○○○ ○○○○	D○○○○○○○ ○○○○

□指導と評価の計画（○時間）

時	目標、●活動	評価規準	評価方法
1 時 間 目	・ 学習内容の主な項目を記載	上記Aの具体的な内容【関】 上記Bの具体的な内容【発】 ※評価の観点は次のように略記 【美術への関心・意欲・態度】＝【関】 【発想や構想の能力】＝【発】 【創造的な技能】＝【創】 【鑑賞の能力】＝【鑑】	・ 評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載
2 時 間 目		上記Cの具体的な内容 上記Dの具体的な内容	・ 評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

Ⅱ 指導と評価の年間計画(美術Ⅰ)＜例＞

学科：○○科

岐阜県立 ○○ 高等学校

目標 【学習指導要領】	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の留意点】	・主題を表現するための表現形式を確認し、構想を練るための具体的な手立てを示したり、同じ主題でも別の視点からアイデアスケッチを複数描かせたりするなどして、構想をまとめさせる。 ・表現方法における表現効果や方法の組み合わせの可能性を提示するなど、表現を深めるための具体的な方策を提示する。 ・それぞれの作品の特徴的な部分を発言させたり、構図や色彩などについて個別に考えさせたりするなど、段階的に鑑賞に取り組みせるようにする。						
月	題材名	時	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法			
4月	美術Ⅰ オリエンテーション 「B鑑賞」	2	・教科書や図録、生徒作品を鑑賞する。 ・美術の授業に対する学習意欲を高める。	学習プリント	○		○
	私のピクトグラム 「A表現(2)デザイン」 「B鑑賞」	14	・ピクトグラムを鑑賞し、制作に対する関心をもつ。 ・自分を言葉に表す活動、班交流等を通して自己を見つめなおすとともに、自分がどういうイメージをもたれているかを整理する。 ・整理した自分の特徴をQRコード化する。 ・自分を表現するピクトグラムにQRコードを加えて構想する。 ・アイデアスケッチ批評会の中で、発想が表現意図と合致しているか、相手に伝わりやすいかなどを交流する。 ・自分の発想に対する批評を受け、さらに構想をまとめる。 ・構想に改善を加え、下描きをする。 ・デザイン用具を用いて、美しく彩色する。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシート ワークシート アイデアスケッチ ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成した作品 ワークシート 発言内容	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○
5月							
6月	私と居場所 「A表現(1)絵画・彫刻」 「B鑑賞」	10	・自画像を鑑賞し、制作に対する関心をもつ。 ・自己の内面や自己を取り巻く状況などから主題を生成する。 ・主題を基に、アイデアスケッチにより構成などを創意工夫して構想をまとめる。 ・構想したことを基に表現の意図に応じた材料や用具を吟味して使い制作する。 ・主題を追求し、構想に改善を加え、表現方法を工夫しながら制作をする。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシート ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成した作品 ワークシート 発言内容	○ ○ ○ ○ ○ ○		○
7月							
8・9月	日本の美術の伝統と創造 「B鑑賞」	4	・個人で絵巻、障屏画、浮世絵の中で、一つの時代の作品を選ぶとともに、その作品を鑑賞し、調べる。 ・それぞれが調べたことを班、全体で交流する。 ・今回の学習を振り返り、美術文化について自分なりにまとめる。	ワークシート 発言内容 ワークシート	○ ○ ○		○
10月	木彫（木の生命を表す） 「A表現(1)絵画・彫刻」 「B鑑賞」	18	・木彫の作品を鑑賞し、制作に対する関心をもつ。 ・モチーフのイメージを言葉で表現するとともに主題を生成する。 ・モチーフを様々な角度からデッサンするとともに、アイデアスケッチをしながら表現の構想をまとめる。 ・構想を基に、表現の目的や意図に応じて木材や用具の特性、効果を生かしたり、より効果的な表現方法を工夫したりしながら制作する。 ・細部を整え、彫りを仕上げるとともに、彩色する。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシート ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成した作品 ワークシート 発言内容	○ ○ ○ ○ ○ ○		○
11月							
12月	MY WORLD 「A表現(1)絵画・彫刻」 「B鑑賞」	8	・シュルレアリスムの作品を鑑賞し、制作に対する関心をもつ。 ・言葉遊びから生まれた不思議な世界をスケッチする。 ・これまでのスケッチなどを参考に、自分の世界を絵にするなど、表現の構想を練る。 ・モダンテクニックなども活用しながら制作する。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシート スケッチ アイデアスケッチ 制作途中の作品 完成した作品 ワークシート 発言内容	○ ○ ○ ○ ○ ○		○
1月	思い出アルバム 「A表現(3)映像メディア表現」 「A表現(2)デザイン」 「B鑑賞」	10	・写真による作品を鑑賞し、制作に対する関心をもつ。 ・1年間撮り溜めた写真の中から、写真集に掲載する写真を選択する。 ・写真にコメントを加えたり、レイアウトを工夫したりしたりするなど、見やすさに配慮しながら写真集を制作する。 ・表紙について、文字やレイアウト等を考えるなど工夫しながら写真集を完成させる。 ・他者の作品から、作者の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、ワークシートにまとめる。	発言、ワークシート 制作の様子 制作途中の作品 完成した作品 ワークシート 発言内容	○ ○ ○ ○ ○ ○		○
2月	今日の美術 「B鑑賞」	4	・20世紀の美術について全体で鑑賞する。 ・作品カードの中からミニ展覧会で展示する作品を班で選択する。 ・ミニ展覧会を開き、展覧会の意図等を説明し合う。	ワークシート 活動の様子 ワークシート	○ ○ ○		○
合計時間数		70					

Ⅲ 評価規準と単元計画（美術Ⅰ）＜例＞

1 科目『美術Ⅰ』の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 科目『美術Ⅰ』の評価の観点の趣旨

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

3 「A 表現(1)絵画・彫刻」の内容

- ア 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。
- イ 表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。
- エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現すること。

「B 鑑賞」の内容

- ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。
- イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、理解すること。
- ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めること。
- エ 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深めること。

4 「A 表現(1)絵画・彫刻」の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術の創造活動の喜びを味わい、絵画や彫刻の多様な表現に関心をもち、主体的に主題を生成して構想を練ったり、主題を追求して表現したりしようとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かして、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。

「B 鑑賞」の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	鑑賞の能力
美術の多様な表現に関心をもち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、自然と美術の関わりや生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などについての理解を深めようとしている。	美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きや日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めている。

5 題材指導計画

◇題 材 名：私と居場所「A 表現(1)」 「B 鑑賞」

◇題材の目標：

私と居場所という主題をもとに、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

◇題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
「私と居場所」というテーマを基に、自己の内面を見つめて表現することに関心をもち、主体的に主題を生成して構想を練ったり、主題を追求して表現したりしようとしている。	「私と居場所」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、表現形式の特性を生かして、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求し表現している。	他の生徒の作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。

◇指導と評価の計画

時	目標、●活動	評価規準	評価方法
1 時間 目	参考作品を鑑賞し、制作に向けての意欲を高める。 ●自画像を鑑賞し、作者の主題、意図と表現の工夫などについて意見を述べ合う。	・「私と居場所」というテーマを基に、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから表現することに関心をもち。【関】	発言・ワークシート
2 時間 目	自己の内面や自己を取り巻く状況などから主題を生成する。 ●イメージを言葉で表したり、作品のタイトルを考えたりして、主題を生成する。	・「私と居場所」というテーマを基に、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主体的に主題を生成し、構想を練ろうとしている。【関】 ・「私と居場所」というテーマを基に、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成している。【発】	ワークシート
3 4 時間 目	主題を基に、構成などを創意工夫して構想を練る。 ●主題を基に、アイデアスケッチなどにより構成などを工夫して構想をまとめる。	・主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、構成などを創意工夫して構想を練ろうとしている。【関】 ・主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。【発】	アイデアスケッチ
5 6 7 時間 目	構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ●構想したことを基に表現の意図に応じた材料や用具を吟味して使い、制作する。	・技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら主題を追求して表現しようとしている。【関】 ・技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。【創】	制作途中の作品
8 9 時間 目	主題を追求し、表現を深める。 ●主題を追求し、構想に改善を加え、表現方法を工夫しながら制作をする。	・技法や材料、用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら主題を追求して表現しようとしている。【関】 ・表現したい意図を大切に、より効果的な表現方法を選択・活用するなど創意工夫し、主題を追求	完成した作品

展 開 (30)	主題を基に、構成などを創意工夫してアイデアスケッチをする。	□自分の主題を基に、効果的な構成を中心に構想し、アイデアスケッチを進めよう。 ○主題を基に、構成を創意工夫してアイデアスケッチを進める。 ○絵に用いるモチーフに変化をつけながらアイデアスケッチを進める。 ○自分を効果的に表すための背景について構想し、アイデアスケッチを進める。 ○参考資料を基に効果的な表現方法について理解し、自分の構想に取り入れる。 ○仲間のアイデアスケッチを参考にし、自分の構想を整理する。	・構成の工夫以外にも、絵に用いるモチーフ等についてもさらに工夫を加えるよう働きかける。 ・工夫の拠り所にさせるための参考資料を準備しておき必要に応じて生徒が活用できるようにする。 ・制作中は、必要に応じて仲間のアイデアスケッチを見て参考にすることができるよう配慮する。 ・主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし構成などを創意工夫して構想を練ろうとしている。 【美術への関心・意欲・態度】 ⇒ 制作中の様子・アイデアスケッチ・ワークシート ・主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 【発想や構想の能力】 ⇒ アイデアスケッチ
ま と め (10)	本時構想したアイデアスケッチについて班で交流したり、ワークシートに評価したりする。	□班ごとに構想したアイデアスケッチを交流しよう。 ○班ごとに構想したアイデアスケッチを交流し、自分の構想のよさを実感したり、課題を明確にしたり、他者のアイデアから学んだりする。 □ワークシートに本時の制作についてのよさや工夫した点、課題を記入しよう。 ○ワークシートに本時の制作についての評価を記入する。	・自分や仲間が構想したアイデアスケッチを振り返り、よさや工夫した点を確認させるとともに、次時への課題がもてるよう配慮する。